

# 2017年度の主な事業報告書 (2017年4月1日～2018年3月31日)

## ■ 事業実施の概要について

箕面の山麓保全を推進する中間支援組織であるNPO法人として機能強化につとめ、山麓保全アクションプログラムに基づき、山麓部がもつ公益的な多面的価値を最大限発揮するための活動を活発に行いました。  
※山麓保全アクションプログラム:5ページに注記

中核事業である「山林所有者との関わり強化」では、山林所有者に代わって山林整備を行うボランティア派遣を着実にいき、ボランティア派遣要請件数は39件となり、3件増えました。

「資金の循環の仕組みづくり」では、「山麓ファンド」への募金活動を積極的に進め、4年連続で募金額が100万円を超えました。

「対話と協働のネットワーク構築」では、国・府・市などの行政と市民団体の「協働」の取り組みで明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の例会を7回開催し、シカによる食害を防ぐための諸活動を行った他、ベンチ10台の設置など、利用者の安心・安全に関わる活動に注力しました。

「情報の共有化とPR・広報の強化」では、ホームページ(山なみネット)で活発に情報発信した他年4回、「山なみ通信」などのニュースレターを発行し配布しました。

「人材・組織の育成」では、人と自然の入門講座である「みのお森の学校」などを開催した他、山麓学習・自然学習を担う人材育成講座も開催しました。

「調査・研究」では、ナラ枯れ防止グループによる活動を積極的にいき、山麓部では、枯死木が見つからないなど、大きな成果をあげました。

「ファンド助成」では、山林所有者や市民団体への広報や申請書の配布、受付、相談、チェックなどの助成サポート業務に注力し、3件の自然緑地同意者が増えました。

又、大阪府から受託を受けた箕面ビジターセンター企画運営事業では、自然解説員の配置や展示室の企画運営、自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」の発行の他、自然観察会や工作教室を積極的に進め、年間656人の参加者がありました。

自主事業である、森のセラピー事業では、セラピーアシスターの養成講座を行った他、団体対応やマンスリーセラピーを積極的にいきました。

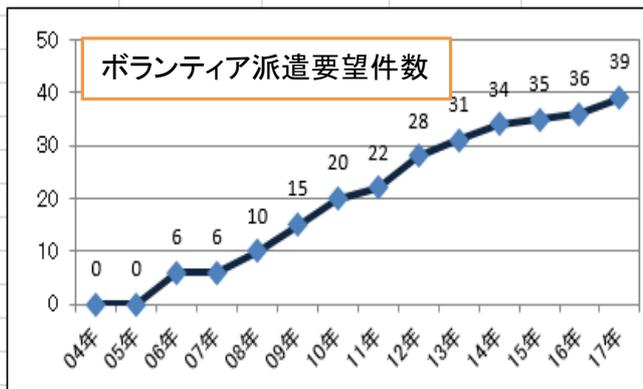
## ■ 中核となる事業について

### 1. 山林所有者との関わり強化

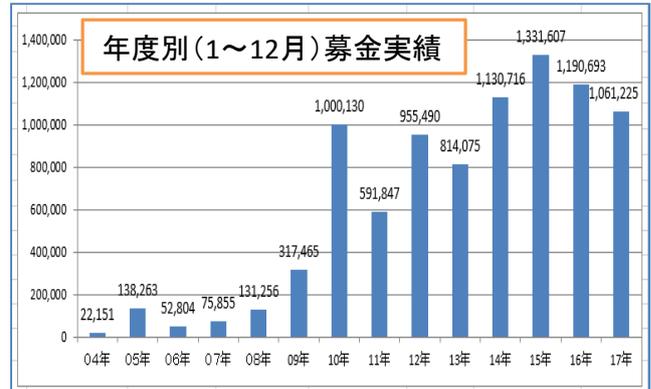
山林所有者の悩み相談会を年2回行った他、個々の山林所有者の問い合わせにキメ細かく対応しました。山林整備サポート(ボランティア派遣)件数は、39件となり前年より3件増えました。

### 2. 資金の循環の仕組みづくり

2017年(1月～12月)の募金額は1,061千円となり減少しましたが、4年連続で100万円を超えました。「箕面の森の守りびと」(山麓ファンドサポート個人会員)は253名となりました。



※2017年度:39件 (ファンド助成71件中)



\* 10年度は個人の大口募金50万円を含む

### 3. 対話と協働のネットワーク構築

明治の森箕面自然休養林(国有林)では、市民団体が中心となり、国、府、箕面市などの行政委員と市民団体委員との対話と協働を前提として、年7回の例会を開催した他、シカによる食害防止や生物多様性の保全など、多彩な活動を活発に行いました。

## ■ 外部環境の変化

### 1. 豊かな自然の恵みと自然災害の脅威

箕面の豊かな自然は、自然環境が保全される中で、行楽・観光地として多くの市民に親しまれみどり豊かな住宅地として、ふもとにすむ市民に大きな恵みをもたらしてきました。

一方で、シカによる食害や山林の手入れがされないことにより、森林が持つ水源涵養や土砂災害などの防止機能の低下が見られ、箕面の急峻な地形の特性に加えて、近年、大阪府でも集中豪雨(1時間降水量50mm以上)の発生頻度が増加していることから、私たちのくらしに影響する可能性のある自然災害の発生リスクが増大しています。



ウツギ谷 溪流沿いのスギの倒木



箕面公園滝道/石子詰の土砂崩れ

2017年10月23日未明日本の南の海を北上した台風21号は大雨を伴った暴風となり風の影響で、各所で倒木が発生しました。  
最大瞬間風速  
北北西の風:36.5M  
滝道の復旧工事は2018年10月末ごろまでかかる予定です。

### 2. 山への思い入れが薄れ、持ち主不明の山が増加

有識者による「所有者不明土地問題研究会」の分析によると、2016年時点で所有者が特定できない土地は、山林が最も多く、全国で九州の面積を上回る約410万ヘクタールとなっています。

箕面でも相続手続きがされず放置されていたり、市外に転居されているケースも多く、また山への思い入れが薄い世代が多くなり、山林所有者の自然緑地同意率は50%程度となっています。

持ち主不明の山が増えることが、災害に強い森林づくりを進めるなど山林の公益的な管理を進める際に、大きな課題になる可能性があります。

相続手続きの簡素化、土地の寄付や管理などの受皿づくり、登記簿・森林台帳・固定資産課税台帳の情報の一元化を図るなど、行政が中心になり、仕組みを構築する必要があります。

## ■ 内部環境の変化

### 1. 拡大する活動エリアや領域

山麓保全アクションプログラムでは、森林の持つ公益的で多様な機能を最大限発揮することが目的にあげられており、森林の保全や活用に対する課題は、山麓・山間部に共通する課題であることから、山麓部を中心に山間部にも拡大して活動しています。

また、森林の持つ機能を最大限発揮するためには、活動が不十分な領域もあり、新たな団体が立ちあがり、新しい活動が始まるよう、中間支援組織の立場で支援することが求められています。

### 2. 持続可能なNPO法人の運営をめざして

NPO山麓委員会は、山麓ファンドからの受託事業(ファンド助成に関わる事務を中心とした様々な事業)を行っている他、自主事業として大阪府から受託した箕面ビジターセンター企画運営事業などを行っています。

法人を運営するためには、活動に関わる直接的な経費の他に、管理のための人件費や家賃消耗品費などの間接費が必要です。

課税対象となる収入が1,000万円を超え、約40万円の消費税を納付する必要があり、収入を増やすか、費用を削減するかなど、持続可能な運営のための財務体質の改善が必要です。

## ■ 個別の事業の実施状況

### 1. 広報事業(情報の共有化とPR・広報強化の事業)

(インターネットを利用した広報)

#### ①、ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開

・精力的に「ブログ」に記事を掲載した(年167回)他、トピックスやイベントカレンダーを更新するなど、タイムリーな情報発信に努めました。

- ・山麓保全ファンドの助成結果やNPO山麓委員会の活動情報などの情報公開を行った他、箕面ビジターセンターのイベント情報や森の安心・安全情報などを発信しました。

### (紙媒体などによる広報)

#### ②、全世帯向け広報

- ・箕面市全世帯向け広報紙「もみじだより」の広告掲載を年1回(2月)行い、「山麓ファンド」による山林所有者や市民団体への活動助成、ファンド募金などについて広報しました。



もみじだより2月号

#### ③、ニュースレターの発行

- ・広く山麓保全活動の情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年4回発行しました。(4・7・10・1月)
- ・箕面ビジターセンターだよりや、その他のイベントチラシなどとあわせてNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」山麓ファンドサポート会員などに郵送しました。

### (イベントを通じた広報)

#### ④、イベントの開催・出展

- ・11月には箕面市との共催で、箕面公園瀧安寺前広場をメイン会場として、箕面駅前までの会場で山とみどりの市民フェスティバルを行いました。
- また、森の音楽会(2回)の会場などで、山麓保全活動の紹介や募金活動などを行いました。



山とみどりのフェスティバル

## 2. 山麓保全交流事業(情報の共有化と意見交換による活動の場づくり事業)

### ①、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の活動

- ・同協議会(国、府、市などの行政委員と12の市民団体で構成)では、NPO山麓委員会が事務局を担当して、年7回の例会を行った他、年5回の分科会(連絡会)を行いました。
- ・対話と協働の仕組みの中で、意見交換や情報の共有化を図りながら、シカの生息状況情報の共有化や植生や自動撮影カメラによるモニタリング調査、「箕面の森の案内板」の補修の他、エキスポの森や政の茶屋園地にベンチ10台を設置するなど、活発に活動を行いました。

## 3. 山林所有者関連事業(山林所有者との関わり強化事業)

### ①、山林所有者への対応

- ・山林所有者の山林整備活動に対する公益信託「みのお山麓保全ファンド」による助成は、2017年度(2・8月期)は、71件6,818,500円でした。
- ※3件の山林所有者が新規に「自然緑地」に同意しました。

### ②、山林整備サポーターの派遣

- ・山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は39件(前年より3件増)の所有者から要請があり、のべ268人のボランティアが山の手入れの活動を行いました。



### ③、山林所有者の”悩み相談会”の実施

- ・山林所有者の”悩み相談会”を2回(8月・2月)行い、2件の相談を受けました。山林整備サポート1件は、新規に山林整備サポート要請をされて助成申請されました。
- ・別途、山林を寄付したいという要望があり、個別対応を継続しています。

## 4. 活動を支えるための募金活動(人と資金の循環の仕組みづくり事業)

### ①、「山麓ファンド」への募金活動

- ・2017年(1月~12月)の募金額は、1,061,225円(箕面市ふるさと寄附金305千円を含む)でした。前年より減少しましたが、4年連続して100万円を超えました。
- ・「箕面の森の守りびと」(山麓ファンドサポート会員)は253名となりました。

- ・阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクトや阪急電鉄株から、箕面の紅葉の保全と再生を目的に寄付を頂いた他、募金付き自動販売機、募金箱、市民イベントなどで募金をいただきました。
- ※阪急箕面駅「もみじの足湯」募金136,174円(同プロジェクト及び阪急電鉄)

## ②、NPO山麓委員会への募金活動

- ・「子どもたちに残したい！箕面の豊かな森づくり」をテーマに、3,000円募金をしていただいた方に「箕面の自然と生き物」のDVDを進呈する活動を行いました。別途、ナラ枯れ被害対策を目的として71,280円の寄付をいただきました。

## 5. 人材&活動組織の育成事業

### ①、「みのお森の学校」の開催による人材育成

- ・人と自然の入門講座として10回講座に刷新した「みのお森の学校」、第12期生(2016年9月～2017年6月)は18人が受講、2017年9月から始まった第13期(2018年6月修了)は、現在21名が受講しており、今後、多様な分野での活躍が期待されています。



森の学校 実習

### ②、「山麓学習(箕面の自然学習)」を担う人材の育成

- ・山麓学習を担う人材育成活動として、小学校の授業を手伝うスクールインタープリター養成入門講座(1日間の講義・実習)を9月に行い、6人が参加・修了しました。

### ③、新たな市民ボランティア組織の立ち上げ支援

- ・新規の活動として、マミズクラゲの調査、里山散策路をつくろう会、昆虫科学教育館の活動が始まりました。



防虫ネット施工後

## 6. 企画及び調査・研究事業

### ①、ナラ枯れ防止グループの活動

- ・ハイキング道のコナラ(枯死するとハイカーに危険を及ぼす可能性がある)を中心に防虫ネットを巻き、被害の予防に注力しました。(防虫ネット施工:2017年度166本、2016年度114本) ※樹種別枯死率:コナラが80%以上
- ・結果として枯死木が激減し、南斜面山麓部では、枯死木が見つからないなどの大きな成果が得られました。 ※枯死木:2017年82本、2016年468本、2015年530本、2014年377本
- ・38ヶ所の地域別発生状況を集計し、重点地域(例:谷山尾根)を設定して活動しました。
- ・GPS情報など詳細なデータ(枯死木に危険度ランキングを付加)を行政に提供しました。 ※2017年4月～2018年3月期間で延べ269人/日の活動

### ②、生物多様性の保全に向けて

- ・12月10日、大阪府主催の明治の森箕面国定公園指定50周年記念フォーラム(午前開催)と連携して、生物多様性の保全に向けた「人と自然の共生のための研究フォーラム」(午後開催)を行い、午後の生物多様性フォーラムには80人が参加しました。 ※「生きもの会議」は、2018年4月に独立した団体になり、今後の活動が期待されます。

## 7. 「山麓ファンド」助成事務サポート事業

### ①、助成申請の受付や活動促進など

- ・「山麓ファンド」の助成申請の広報、申請書の配布と受付、申請の相談などの山麓ファンド助成サポート事務を行いました。 ※山林所有者への活動助成・・・17年度(2017年2月・2017年8月)計71件、6,818,500円 ※市民団体への活動助成・・・17年度(2017年2月・2017年8月)計20件、2,889,985円

### ②、助成事業の支援や進捗確認など

- ・山麓ファンド助成を受けた団体や山林所有者などの活動支援や進捗確認などを行いました。

### ③、みのお山麓ファンド助成活動の報告交流会

- ・2017年6月に32人が参加して、2016年度に助成を受けた7団体、及び2017年度新規に助成採用された3団体の活動報告会及び交流会を行いました。

## 8. 箕面ビジターセンター企画運営事業

### ①、自然解説活動

- ・土日・祝日を中心に8月・11月の平日を含めて、年180人/日の自然解説員を配置し、ビジターの安心・安全のためのハイキング道案内や、植物や野鳥など季節の自然情報などの発信を行いました。
- ・年34回(上期20回・下期14回)、季節の自然に親しむ観察会や自然工作教室を開催し、年間656人の参加者がありました。



冬越しの生き物の観察会

- ・5月に関西学院大阪インターナショナルスクールの小学4年生の校外学習を行った他、10月に箕面森林ふれあい推進センター主催の箕面市豊川北小学校の小学4年生の校外学習など学校行事にも協力しました。自然観察や展示室の紹介、自然工作教室などを行いました。
- ・箕面ビジターセンターの展示室内で、季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。
- ・年4回、自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」を発行し配布しました。※2500部×4回＝10千部

### 8-2 PR・広報活動

- ・ホームページ「山なみネット」で、箕面ビジターセンターのイベント情報やブログ掲載など、情報発信や活動紹介を活発に行いました。

### 8-3 企画活動、PR・広報活動

- ・年6回の「友の会」(企画会議)を開催し、自然解説業務の企画検討を行いました。箕面ビジターセンターだよりや展示室企画、自然観察会、自然解説員の配置計画の検討などを行った他自然情報やビジターの安心・安全情報の共有化を図りました。

## 9..「箕面の森林セラピー」の研究と人材育成

- ・森林の機能を活用した「こころとからだの健康増進」を目的とした森林セラピーの事業開発を継続しました。
- ・森のセラピーアシスター養成講座(受講料6,000円)を行い、7人が参加され、今後の活躍が期待されます。
- ・マンスリーセラピーには37名の参加があった他、団体対応が2件林野庁の「森林ふれあい推進事業」で15名の参加者がありました。



森のセラピーの様子

### ※山麓保全アクションプログラムの概要

#### 山麓保全を進めるための理念と目標

##### ■山麓保全を進めるための基本理念

山麓部の現状と山林の多面的機能を再認識し、三者(山林所有者、市民、及び行政)が協働で保全に取り組む

##### ■山麓保全の目標

- ① 山麓部のみどりそのものの機能を最大限に発揮させる
- ② 山麓部のみどりを支える人・資源・お金を循環させる

#### 山麓保全を進めるために

##### ■三者協働で山麓保全を進めるための仕組みづくり

- ① 情報・意見交換・行動発生(プラットフォーム)を設ける
- ② 仲人的な役割を果たす「山麓保全を推進する組織」を設立する
- ③ 以上の取り組みを支える「資金循環のシステム」を整える

#### 山麓保全を進めるためのプログラム(例)

里山の管理	里山とのふれあい	山道の手入れ	貴重な自然の保護
山林の防災・保安・利用モラルの向上	山の幸づくり		里山文化を育てる
山麓保全を支える人材の育成	山麓の学習・調査・研究		
山林(土地)の管理・活用	山麓保全に関わる団体の交流		
山麓保全のための資金の確保			

### ※自然緑地等指定制度

自然緑地等指定制度は、山麓部の市街化調整区域内の一定規模以上の緑地(＝自然緑地)または由緒ある樹木(＝保護樹木)や樹林(＝保護樹林)を、所有者の同意を得て指定し、所有者と協力して保全していこうとする制度です。(箕面市環境保全条例第47条)